



日本最大級の弥生墳丘墓

楯築遺跡



指定区分	国指定史跡
読みかた	たてつきいせき
所在地	倉敷市庄新町
指定年月日	昭和56年12月9日
解説	<p>弥生時代の墳墓遺跡。楯築神社が所在する直径約40mの主丘に、かつては北東側と南西側にそれぞれ方形の突出部をもっていた。各所から特殊器台形、壺形、高坏形などの土器片多数が発見された。弥生から古墳時代への墓制を考える上で貴重な遺跡。</p>
アクセス方法	JR吉備津駅から約3km
公開状況	自由
設備	<p>   </p>
備考	<p>温羅伝説では、頂上に立てられた5つの石は、吉備津彦命が温羅が射る矢を防ぐために築いた石の楯とも言われています。</p>

きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	楯築遺跡
よみかた	たてつきいせき
しょざいち (所在地)	倉敷市庄新町
していたひ (指定した日)	昭和56年12月9日
せつめい	弥生時代(やよいじだい)後期(こうき)の大きなお墓(はか)です。一部(いちぶ)は失(うし)われてしまいましたが、弥生時代のお墓では日本で最大級(さいだいきゅう)です。丘(おか)の上にはとても大きな岩がならべられ、盛大(せいだい)な儀式(ぎしき)が行われていたと思われます。古墳(こふん)時代より前にこのように大きなお墓がつくられたのは、とても力のある王さまがこの地(ち)にいたからだと考えられます。